

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年1月27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675400115
法人名	医療法人 拓和会
事業所名	ろうけん大楠グループホーム「たんぼぼ」
所在地	鹿児島県姶良市蒲生町下久徳1251番地 (電話) 0995-54-3101
自己評価作成日	令和3年11月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ろうけん大楠グループホームたんぼぼは、介護老人保健施設や居宅介護支援事業所と隣接し、母体事業所との連携も整っています。日々の出来事を忘れ、明日への希望が持てない生活を送っている入居者様が多い中、その日その時を大事にし、入居者様の出来ることを維持しながら、共に支えあう関係作りを目指しています。入居者様のご要望に合わせ、毎日入浴できる様にしています。また、たんぼぼ農園で季節の野菜を作ったり、気候の良い時にバーベキューを行う等、楽しみの持てる環境作りをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は同法人の老人保健施設等に隣接しており、日常的に連携・協力体制が築かれている。母体医療機関との24時間医療連携体制が整っており、家族等の安心に繋がっている。
- ・コロナ禍の為、家族との面会も自粛しているが、できるだけ利用者の様子を見てもらえるようにコロナの感染者状況を見ながら面会方法を工夫している。また、事業所から「たんぼぼ通信」を毎月、「たんぼぼ便り」を半年毎に送付し、写真も同封して、利用者を身近に感じてもらえるように取り組んでいる。
- ・管理者・職員は、「利用者が安心して自分らしく暮らせるよう支援する」ことをケアの中心に置き、利用者がしたいこと・思いを自分で表出できるような声掛けに努めている。
- ・管理者は、職員が業務に集中して取り組めるよう休憩時間の確保に取り組んだり、個々の事情に応じて、休暇制度の活用や勤務時間の調整等により働きやすい環境作りに努めている。また、資格取得や研修受講を支援し、職員のレベルアップを図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り後に、職員で介護理念を唱和し、それを入居者様とのかかわりの中で反映されるように努めている。	理念は、リビングや事務室に掲示して毎朝唱和しており、重要事項説明書・パンフレットにも掲載している。ケア会議や個々の関わりの中でケアを振り返り、理念の反映に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の流行により、通常地域交流は困難であったが、未知の感染症への対応について、各事業所、自治体と日頃より密に情報共有を図っている。以前のような、地域交流は出来ていないのが現状である。	コロナ禍の為、地域行事への参加や実習生及びボランティア受け入れは自粛している。住民から野菜や未使用の介護用品の差し入れ等があり、限られた中で住民と親しく交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	主に各居宅事業所の担当ケアマネジャーを窓口、相談者から直接お電話をいただき、ご相談を伺っている。ご家庭での様子や認知症の症状、ご家族との関係性や利用サービス等を伺い、ご家庭での介護の一助となるような助言に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、書面開催を行い、電話などにて意見を伺いながら、サービス向上を図っている。	書面開催となり、2ヶ月毎に事業所の状況報告等の資料を送付し、電話で意見を聞いている。委員から得た意見や情報を、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>コロナ禍にて書面開催ではあるが、運営推進会議等でアドバイスや情報提供を頂いたり、電話等でもスムーズに対応して頂いている。困難ケースなどの相談なども伺い協力関係を築けている。</p>	<p>市の担当者とは、運営推進会議資料を送付して意見をもらったり、メールや出向いて相談する等、日頃から連携を図っている。研修会について、ズーム研修等も連絡があれば参加する予定である。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>事業所で毎月委員会を開催し、定義について再確認している。個人の意思を尊重し、主体的活動を支援する事が身体拘束の防止につながるため、個別ケアの検討を行うケア会議を最重視している。身体拘束のみならず、精神的拘束にも留意している。また、離設される入居者が複数いるため、スタッフ間で連携を図り、付き添い・見守りを行う事で拘束しないよう努めている。</p>	<p>指針があり、委員会を毎月開催し、研修は毎月のケア会議時に実施している。「自分がされて嫌なことはしないケア」に取り組んでいる。不適切な言葉かけは、職員間で注意している。玄関は施錠せず、外出希望者には話しかけながら見守り・付き添って散歩している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>GH会議で(言葉・身体)暴力、虐待について学習しケアに努めている。特にTV・新聞に報道されるような事件が発生した際は、積極的に話題に取り上げる事で、同じような悩みを抱える職員が一人で抱え込まないように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業及び成年後見制度について、ホーム内研修を行った。現在、棟内には対象者はいないが、核家族化や少子化が進む中で、身近に必要とする方が今後増える事や活用できるよう話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結・解約の際は十分に説明を行い重要事項説明書・利用契約についてご本人、ご家族様が十分に納得、理解された上で同意を頂き契約を取り交わしている。重度化や看取り及び医療連携体制等についても同様に十分な説明を行い納得理解され同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	親しい間柄にあっても本音を明かさない入居者様・ご家族もおられ、それを察してあげられる”気遣い”や環境・雰囲気作りを大切にしている。意見箱も設置。	利用者には、日常会話で自分の意見を表出できるよう声掛けしている。家族には、電話や来訪時に要望等を聞いており、嗜好品や好物の摂取についても、家族の気持ちに沿って対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回、ケア会議とグループホーム会議を行っており、また、日常的にスタッフ間でコミュニケーションを図り、意見交換できる機会を設けている。意見の言えない職員に対しては、個別で面談などを行っている。	管理者は、ケア会議やグループホーム会議で職員の意見を聞く他、日頃から意見交換に努めている。職員の話し合いと試行を経て休憩時間を確保し心身の負担軽減を図る等、業務改善にも努めている。必要時の面談や個別相談は管理者が対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>毎年、健康診断を実施し、定期的に職員の健康状態の把握に努めている。特に本年度は感染症対策の一環としても、出勤時と食後休憩中に2回は検温を行い、毎日体調不良者の把握に努め、調整を行っている。また、産休・育休制度や介護休暇制度を活用できるよう努め、個々の事情に応じて、勤務時間の調整も行い、働きやすい環境の提供に努めている。資格取得に関しても、適宜、人的・金銭的バックアップを行い、手当への反映を行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>コロナ禍により、外部研修が実施出来ない為、一人一人の力量を把握した上で、法人内での個別スキルアッププログラムを実施している。また、DVDやプロジェクターを活用し、感染症対策など全体研修も取り入れている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホーム協議会に登録し、同業者との交流の機会を設けるよう努めているが、今年度は研修や講演会への参加を行えていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は、特にコミュニケーションを多くとるようにし、会話や行動を観察し、不安にならないような安心できる居場所づくりと関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で、ご家族やご本人の状況、お困りごとや不安点、これからどんな生活を望まれるかを伺いながら、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ずしも家庭的な個別ケアがその方にとって適しているとは限らないため、他のサービス利用も視野に相談に応じるよう努めている。また、緊急の入居が必要と判断され、かつ空床がない場合は、同法人の老健に一時入所し待機されるよう提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事・散歩・洗濯物畳みなど、日常の生活活動の中で出来る事、出来ない事の見極めを行い、出来ることを続けながら、出来ない事を支援し支えあう関係性作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居されてもご家族との絆が絶えぬよう、入居時に愛称や好物、大切なものを詳しくお聞きし、日常の会話に取り入れている。また、面会や電話で日ごろの様子をお伝えしている。グループホーム便り（たんぽぽ通信）では、ご利用者の写真をできるだけ限り掲載し、日常風景をお伝えしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>コロナ禍においても、出来るだけ柔軟に面会出来る環境を作っている。また、面会制限中は、ご家族に出来るだけ詳しくご様子を伝えている。</p>	<p>コロナの感染状況を検討しながら居室で短時間の面会を実施する等、家族との面会方法を考慮している。便りや通信・写真の送付等で近況を伝え、利用者を身近に感じよう工夫している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者様同士の性格や相性を考慮した席を配置し、1人1人が孤立しないような支援に努めている。入居者様の性格や日常の関係性について、全ての職員が共有し、職員も一緒に会話を多く持つなどしている。トラブル時は、テーブルの配置などを考慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院による退去の場合、退院後の行き場に困る方が多いため、病院・ご家族と密に連携を図り、場合によっては老健で待機していただく等、切れ目のないフォローを行っている。例年、葬儀への参列など行っていたが、感染症対策のため控えている。当ホームがご家族にとってもオアシスとなるような関係づくりに努め、退去後に来居された際も、入居中と変わらぬ対応を心掛けている。</p>		
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>インテークではその方にとって大切なこと、好物、どのような人生を歩んで来られたか、ご家族との関係性や立ち位置を詳しく伺い、「その人らしく」暮らしたいようニーズの把握に努めている。また、入居後、初期のアセスメントと違う点も出てくるため、適宜、見直しを行い、生き生きと暮らしたいよう検討を行っている。</p>	<p>日常会話の中で、本人が自己決定したり、希望等を自分で話せるような声掛けに努めている。入居当初時は、本人の反応を見ながら家族の情報を得て確認し、その後は日頃の関わりの中で推測して支援している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>サマリーや他事業所からのフェイスシート等を活用することもあるが、ご家族や本人様との会話の中から、生活歴や大切なものをより深く把握できるよう、対面での聞き取りに力点を置いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の日々の様子、表情などをみてレクリエーション、リハビリ等、能力や活動意欲を見極め現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケア会議で本人様に必要なケアの見直しについて話し合い、アイデアを踏襲した介護計画を作成している。 また、ご家族様には細やかに現在のご様子をお伝えしながら、ご家族様が今現在どんな生活を望まれているか、会話の中から把握し、介護計画に盛り込んでいる。	電話や来訪時に家族の要望等を聞いている。ケア会議で検討し家族の要望も入れて介護計画を作成している。毎月ケア会議時にケアをチェックし、3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎や状況変化等には計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日常生活の様子や心身の状態について、介護記録に詳細に記録しているほか、職員間で申し送りをしている。必要時、カンファレンスを行い、実践や介護計画に活かしている。ケア会議にて、日々の気づき、出来たこと・出来なかったことを発表し、意見を出し合いケアの統一を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人様の状態に合わせケアを行い、体調不良時には通院の付き添い、買い物支援等、本人様やご家族の希望に沿った柔軟な支援を行っている。また、希望者や必要性のある方には、定時に併設の老健に行き、セラピストよりアドバイスを受けつつ、機器を使用したりハビリの提供に取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>できる限り地域の行事に参加したり、ボランティアを受け入れているが、新型コロナウイルスの影響もあり、例年ほどは実施できていない。外出支援やふるさと訪問なども行い地域の方との交流も図っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>隔週で訪問診療を実施する健康管理体制に同意の上、入居いただいている。また、他院への受診が必要な場合は速やかにご家族に連絡し、意向を確認している。ご家族の付き添いが困難な場合は、スタッフが同行する等、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	<p>契約時にかかりつけ医を母体医療機関とすることの了解を得て、月2回の訪問診療を実施している。他科受診は初回のみ家族の同行を受け、その後は職員が対応している。母体医療機関との緊急時を含めた24時間の医療連携により、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>隔週の訪問診療の際、同行する特定の看護師と綿密に連携を図っている。日々のバイタルチェックや介護記録で異常が見られる場合は、病院へFAXまたは電話で状態を報告し、適切な医療や看護を受けられるよう指示を仰いでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は、継続介護連絡表を病院に渡し、情報を共有している。入院時も洗濯物等を持参。病院関係者と情報を交換し、今後の相談、見通しなどを伺い、早期退院に努めている。退院後の相談などもしやすい関係にある。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居当初より、どのような終末期を望むか、確認している。本人様には、棺に入れたい大切なものや大事な洋服など、意思表示ができる元気なうちに普段の会話の中から把握し、実際のお見送りに反映するよう努めている。主治医や看護師を交え、ご家族・職員と共にチームを作り、具体的な対応を話し合い、希望に沿った支援を前向きに検討しながら取り組んでいるが、地域の関係者を交えた支援には至っていない。</p>	<p>契約時に重度化の場合の対応について説明し、同意書ももらっている。重度化の場合に医師から家族への説明時は管理者等が同席し、カンファレンスを実施して家族の意向を確認している。家族の意向に沿って、医師・看護師・職員と家族のチームで支援に取り組んでいる。看取り期はコロナ禍の中でも家族の面会を行っており、看取り介護の事例がある。職員の研修は看取り後も実施し、職員が前向きに取り組めるようフォローしている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>例年、消防署の指導による救急講習の訓練を行っているが、今年度はコロナ禍において自主訓練を行った。急変時の対応等は、緊急連絡網の整備、研修等を行い実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行い、夜間想定を実施するが、重度化のため以前のように入居者様が全員避難することは難しくなっている。併設施設の協力、民生委員への協力も依頼している。厚労省のBCP（業務継続計画）の資料及び動画を用いた研修を行っている。	年2回の避難訓練を夜間想定で実施し、併設施設との協力体制を築いている。今年度はコロナ禍の為、消防署の立ち会いは無く、民生委員の協力依頼もしていない。災害時の備蓄は、法人で確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のため、できる限り居室での面会を行い、電話などは、その方に合わせ居室または、事務所へ案内し、スピーカーフォンで話していただくなど配慮している。また、本人のプライバシーを損ねるような発言や声掛けなどがないようにスタッフ間で心掛けている。	研修を実施し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。本人が嫌がることをしない、馴れ合いにならないようにする等を念頭に、ケアに取り組んでいる。申し送りは内容が分からないように配慮し、プライバシーの確保をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意見、理解度には個人差がある為、その人に合わせた声掛け、支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムや意思を尊重し、本人の行動の妨げにならないよう支援する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	髪を整えたり、習慣のある方はスキンケアをされており、男性には髭剃りの声掛けを行っている。2ヶ月に1度散髪の出張サービスを提供している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえ、食事の下膳、台拭き、お膳拭きなど可能な方には手伝っていただいている。誕生日には本人様の好物を提供したり、行事食のメニューを考えたり、味見などをしていただいている。	管理栄養士の献立を参考に、個々に応じた食事形態で提供し、代替食も準備している。利用者も一緒に下ごしらえや準備をしている。誕生日の好物、季節の行事食・バイキング・餅つき等、食事を楽しめるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医より入居者の病態に応じた食事提供について助言をいただき、また、個人の嗜好に応じた食事の提供をできる限り行う事で、摂取量の確保を行っている。水分量についても、甘味料を加え摂取を促すなど、その方に適した水分量の確保を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に合わせ、日中はできる限り見守りの下、自力で嗽やブラッシングなどしていただく。自歯の方などは洗口液も使用し口臭予防を行い、夜間の義歯消毒など清潔保持に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、個人の管理能力に応じた排泄用品の提供、緩下剤の使用、声掛け・誘導を行い、可能な限りトイレでの排泄を支援している。	把握している排泄パターンに応じて声掛け・誘導を行い昼夜共トイレでの排泄を基本に支援している。排泄用品は、個々に適した物を経済面も配慮して選択している。夜間は、睡眠を優先しオムツを使用する利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難が及ぼす認知症の周辺症状悪化等、日々のケアの中で理解を深め、個別に排便管理を行いながら、適宜、ヨーグルトや野菜ジュース・牛乳などの提供や、散歩・軽体操などでスムーズな排便を支援している。但し、排便困難時は主治医や看護師等と連携し、対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	希望者は毎日入浴していただき、入浴剤を使用したり、音楽を流すなど、入浴を楽しんでいただいている。体調や状況に合わせた入浴支援を行い、本人の意思確認を行いながら入浴していただいている。ゆず湯で季節を楽しむなどの工夫も行っている。	9時～17時までの希望する時間に入ってもらっており、入浴剤を使用したり音楽を流し、浴槽に浸かってゆっくり楽しんでおり、ゆず湯も実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	個人に合わせた空調管理、布 団の調整などを行い、入居者様 はリビングと自室を自由に移動 し、いつでも休息したり、昼夜 問わず、入床・入眠できるよう 支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や 副作用、用法や用量について理解してお り、服薬の支援と症状の変化の確認に努 めている	薬情を確認できるよう、個人 毎に記録と共にファイルしてい る。服薬は、個々の能力に合わ せ、確実な服用確認を行ってい る。病状変化に対応できるよう、 主治医との連携も取れている。 内服変更時は、申し送りを 徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活暦や力を活か した役割、嗜好品、楽しみごと、気分転 換等の支援をしている	できることはしていただき、 お手伝いへの感謝の言葉を伝え ている。また、行事や好きな食 事の提供で気分転換を行ってい る。菜園や花壇づくり、散歩や 外気浴の提供を行っている。 また、外出の機会が減ったた め、カラオケ大会を行ってい る。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、 戸外に出かけられるように支援に努めて いる。また、普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かけられるよ うに支援している。	新型コロナウイルス感染予防 を考慮しながら、積極的な外出 支援を行っている。 グループホーム外に行きたが る方には、職員が付き添いなが ら散歩し、地域の方からも温か い眼差しで見守っていただい ている。	毎日、外気浴や畑までの散歩を している。希望者でひまわりや コスモスの花見、蘭牟田池・住 吉池等にドライブをし、車内 でお茶を飲んでいる。また、家 族の協力で、自宅訪問に出かけ た利用者もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>大部分の方が、金銭管理は難しくなっており、感染症対策にて買い物支援は控えているため、こまめに希望を確認しながら職員が買い物を代行し、本人にお渡しするよう努めている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>自筆でできる方は自筆で、できない方は職員が代筆し、残暑見舞いや年賀状等、折々のやり取りができるよう支援している。また、携帯電話を所有されている方もおられ、自由に電話をできるよう支援している。耳の遠い方は、事務所に来ていただき、スピーカーフォンにて対応している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>一緒に掃除をしていただいたり、壁画制作や季節の花を飾ったりして、季節感を感じられるよう工夫している。室温や湿度の調整なども心掛けている。</p>	<p>リビングは、季節の飾り付けや作品・花で季節を感じられるように工夫している。室内は、玄関や居室の窓を開けて換気を行い、加湿器やエアコンで過ごしやすい室内環境に調節している。利用者が好きな場所にくつろげるよう、ソファや外にベンチ等を置いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>自席以外にもソファや玄関先のベンチなどを設置し、自由に利用していただいている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご家族の写真や使い慣れた寝具などをもって来ていただいたり、タンスや椅子などの配置を工夫し、本人が自由に過ごせるような環境の工夫を行っている。</p>	<p>居室には、ベッドやタンス・吊り棚・エアコンがあり、寝具はリースである。利用者は、テレビや椅子・毛布・時計を持ち込んだり、位牌や遺影・写真等の大切な物を身近に置いて安心して過ごせるように工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々の能力に応じて、手すりや自助具の使用、座席の配置の工夫などを行い、できる限り自力でできるよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない